

平成23年 第1回  
教育委員会定例会会議録

平成23年1月11日（火）

港区教育委員会

# 港区教育委員会会議録

第2316号

平成23年第1回定例会

日 時 平成23年1月11日（火） 午前10時00分 開会

場 所 教育委員会室

「出席委員」

委員長職務代理者

半 田 吉 恵

委 員

小 島 洋 祐

委 員

澤 孝一郎

教 育 長

高 橋 良 祐

「説明のため出席した事務局職員」

次 長

小柳津 明

庶 務 課 長

伊 藤 康 博

教育政策担当課長

山 本 隆 司

学校施設計画担当課長

村 上 利 雄

学 務 課 長

新 宮 弘 章

生涯学習推進課長

大 竹 悦 子

図書・文化財課長

沼 倉 賢 司

指 導 室 長

加 藤 敦 彦

「書 記」

庶務課庶務係長

岡 田 圭 子

庶 務 課 庶 務 係

遠 藤 由香里

「議題等」

日程第1 会議録の承認

第2304号 第6回定例会（平成22年6月8日開催）

日程第2 審議事項

議案第2号 港区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について

日程第3 協議事項

1 港区学校施設等使用条例施行規則の一部改正について

日程第4 教育長報告事項

1 放課後児童育成事業（放課GO→）の運営事業者の候補者選定結果について

- 2 港区芝給水所公園運動場の休場について
- 3 港区赤坂小学校屋内プールの休止について
- 4 第68回国民体育大会（東京国体）の港区における準備組織について
- 5 生涯学習推進課の12月事業実績と1月事業予定について
- 6 生涯学習推進課の各事業別利用状況について
- 7 図書館・郷土資料館の11月行事实績と1月行事予定について
- 8 図書館の12月分利用実績について
- 9 1月指導室事業予定について
- 10 新郷土資料館の候補地について

「開 会」

○半田委員長職務代理者 皆様、おはようございます。ただいまから平成23年第1回港区教育委員会定例会を開催いたします。

それでは、日程に入ります。

(午前10時00分)

「会議録署名委員」

○半田委員長職務代理者 本日の署名委員は澤委員にお願いいたします。

## 第1 会議録の承認

第2304号 第6回定例会（平成22年6月8日開催）

○半田委員長職務代理者 日程第1、会議録の承認に入ります。

平成22年6月8日開催の第2304号、第6回定例会の会議録につきましては承認ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

○半田委員長職務代理者 それでは、承認することに決定いたしました。

## 第2 審議事項

議案第2号 港区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について

○半田委員長職務代理者 日程第2、審議事項に入ります。

初めに、議案第2号、「港区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について」。庶務課長、説明をお願いいたします。

○庶務課長 それでは、議案資料ナンバー1をご覧ください。

議案第2号、「港区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」報告書についてでございます。

報告書（案）の1ページをご覧ください。この「点検及び評価」の実施は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項及び第2項に基づいて行うものでございます。教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、それに関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされてございます。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し、学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされてございます。

教育委員会は、この規定の趣旨を踏まえまして、主要な事務事業について、執行状況を点検及び評価し、課題や今後の取り組みの方向性を示すことで、区民への説明責任を果たすとともに、区民に信頼される教育行政を推進していくこととしております。

点検及び評価の実施方法でございますが、「港区基本計画（平成21年度～平成26年度版）」及び「港区教育振興プラン（平成21年度～平成23年度版）」に計上している主要事業並びに「教育の港区」の実現を目指した先駆的、特徴的な事業を対象として点検及び評価を行います。その対象事業の平成21年度実績に対して点検及び評価を行うとしてございます。点検及び評価は、評価対象事業の進捗状況を踏まえ、課題や今後の取り組みの方向性を示すものとしてございます。それから、点検及び評価は、学識経験者の意見を聴取した上で教育委員会が行うこととしてございます。また、教育委員会が点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を区議会へ報告するとともに公表するとしてございます。

点検及び評価の対象事業でございますが、先ほどご説明いたしました「港区基本計画」並びに「港区教育振興プラン」に計上している主要事業並びに「教育の港区」の実現を目指した先駆的、特徴的な事業について点検及び評価を実施いたします。具体的には、資料にございますとおり、（1）の「小中一貫校の設置」から、（15）の「読書活動の推進」までの15事業を対象に点検及び評価を実施してございます。なお、（1）から（12）「スポーツセンターの整備」までが「基本計画」並びに「教育振興プラン」に計上している事業でございまして、（13）以降の3事業につきましては、先駆的、特徴的な事業として評価の対象としたものでございます。

学識経験者でございますが、資料にございます3名の方にお問い合わせをいたしまして意見をいただいております。

続きまして、点検及び評価の概要でございます。

まず、小中一貫校の設置では、港区では最初の小中一貫教育校となるお台場学園の開校に向けまして、独自のカリキュラムの作成や学校の経営体制の整備といったものの準備を進めてまいりました。また、三光小学校、神応小学校、朝日中学校を母体とする朝日中学校通学区域の小中一貫教育校につきましては、主として校舎等施設面からの検討を進めてまいりました。これら、いずれも、PTAや区民が参加する検討会において関係者の理解を得ながら検討を進めてまいりました。

その結果といたしまして、お台場学園は平成22年4月に開校いたしました。今後は、お台場学園における円滑な学校運営の支援を行うとともに、教育活動等の検証・改善に取り組み、より高い成果が得られるよう努め、その成果を朝日中学校通学区域の小中一貫教育校、さらには区内の全ての小・中学校に反映してまいります。

2番目のエコスクール計画の推進でございますが、校舎等の屋上や壁面の緑化、あるいは校庭の芝生化、風力・太陽光発電など自然エネルギーの活用とともに、エコ給食ネットや学校版環境マネジメントシステム——現在では「みなと子どもエコアクション」という名称をつけてございますけれども、これらの運用など多様な事業を展開してございます。これらの事業を通しまして、都心区特有の課題であるヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化など地球環境問題の改善に寄与するとともに、子どもたちが環境問題に対して理解と認識を深め、みずから率先して環境保全活動に取り組む契機となることを目指しております。

平成21年度につきましては、学校の改築にあわせまして、港南小学校、三田及び高陵中学校において校庭緑化、建物緑化、自然エネルギー発電設備の整備に取り組んでございます。また、計画にはない高輪幼稚園を初め6校(園)で校庭緑化を、本村小学校で建物緑化を実施しました。引き続き、子どもたちの環境学習、ひいては地球環境問題等の改善にも寄与できるよう事業の充実を図ります。

3番目の「3年保育実施幼稚園の拡大」では、区内の公・私立幼稚園がともに連携・協力して港区の幼児教育を推進することを基本としつつ、近年の急激な幼児人口の増加等によりまして、幼稚園における3年保育が区民ニーズの非常に高い重要な課題となっていることを踏まえまして、区立幼稚園での3年保育の拡大に取り組みしました。

平成21年度につきましては、既設の中之町幼稚園、にじのはし幼稚園に加え、新たに白金台幼稚園で3年保育を開始してございます。しかしながら、平成21年11月に実施した平成22年度園児募集では、白金台幼稚園において定員の4倍近い応募があるなど、3年保育に対する区民ニーズは極めて高い状況にあることから、平成23年度から実施を計画しております港南幼稚園にとどまらず、さらなる拡大に向けて私立幼稚園との協議を積極的に進めるなど条件整備に努めるとしてございます。なお、22年度の取り組みについては、既にご承知のとおり、来年度から大幅な拡充が実現できることになってございます。

4番目の「国際学級の開設の検討」では、区立学校における外国籍児童や海外からの帰国児童に対しまして、これまでの日本語学級、日本語適応指導に加え、学習指導の一部に英語を使用するなど新たな教育環境を整備することにより、外国籍児童と日本人児童がともに学ぶ港区ならではの国際学級の設置を目指して検討を進めてございます。

平成21年度につきましては、外国籍児童や日本語学級に通級する児童の現状把握など、開設に向けた事前調査を進めてございます。引き続き、課題の整理と具体的な方策の検討を進めてまいります。

5番目の「校舎・園舎等の改築等整備」では、通学区域内の子どもの数の変化、あるいは施設の老朽化等により、多様化する教育ニーズに対応できなくなった校舎・園舎の整備を進めてございます。また、施設整備に当たりましては、緑化等の環境整備や維持管理の容易な施設づくりとともに、生涯学習・スポーツ活動の場や災害等の避難場所としての機能をあわせ持つものとして学校施設の充実を図ることとしてございます。

平成21年度につきましては、三田中学校及び高陵中学校並びに港南小学校の改築が完了いたしました。また、芝浦小学校・幼稚園の改築を継続したほか、新たに港南幼稚園の改築に着手してございます。今後とも、多様化する教育内容に適切かつ柔軟に対応できる校舎・園舎等の整備を進めてまいります。

6番目の「新教育センターの整備」では、従来のカリキュラムセンター、相談センターに加えて、新たに体験学習センターの機能をあわせ持つ新しい教育センターの整備を進めてございます。この整備地は、旧駒絵小学校跡地——これは日本の公立小学校発祥の地でございますけれども——に気

象庁庁舎との複合施設として整備してまいります。建物の建設及びその後の維持管理はP F I 方式とするものの、新教育センターの設備整備や運営は区独自に行うことといたしまして、区の主体性が発揮できるような仕組みとしてございます。

平成21年度につきましては、国と事業協定を締結し、また、区議会の議決をいただきながら、国との受委託契約の締結などの手続を進めてございます。それから、新たに設ける体験学習センターについても、学校の教員を含む検討会において展示方針等の検討を進めてございます。今後とも事業の着実な推進に努めてまいります。

7番目の「(仮称)学校歴史資料室の設置」では、これまで統廃合となった区立学校の資料を収集、整理し、区民全体の知的文化遺産として保存・公開する施設の整備を目指してございます。日本の公立小学校発祥の地という歴史を継承するとともに、児童・生徒及び区民の学習活動への活用を図るものとしてございます。なお、この学校歴史資料室につきましては、新郷土資料館の整備にあわせて設置する予定でございます。

21年度は、新郷土資料館の建設地が未確定のため事業が進展しておりません。今後とも建設地の調査・検討を含め、事業の推進に努めてまいります。

8番目の「I T 図書館の推進」では、I C T (情報通信技術)を活用して、インターネット上での図書館情報の提供や資料の検索及び予約、I C タグによる貸し出し・返却手続の迅速化や資料の適切な管理、また図書館以外の施設とのシステム連携による利用窓口の拡大などを進めてございます。また、今後のW e b 図書館等の新しいデジタル図書館サービスの検討も進めてございます。

平成21年度につきましては、ホームページを改修し、情報提供量の拡大を図ったほか、麻布図書館サービスセンターに自動貸出機を導入することにより、区立図書館全館への自動貸出機の導入が完了いたしました。また、新たに青山生涯学習館図書室を図書館システムに組み込み、図書館資料の貸し出し・返却・予約処理を開始いたしました。今後とも、利用者がより使いやすく便利な図書館を目指してまいります。

9番目の「図書館の整備」では、麻布図書館、みなと図書館、三田図書館の改築、高輪図書館分室の設置を進めてございます。平成21年度につきましては、麻布図書館について基本構想・基本計画を策定し、住民説明会を開催する一方で、建設地について関係部門と調整を続けるなど、平成25年度中の開設を目指して準備を進めてございます。(仮称)高輪こども中高生プラザ内に設置する高輪図書館分室は、平成23年末の開館を目指しまして平成22年2月に着工いたしました。しかしながら、みなと図書館及び三田図書館についてはまだ事業は進捗していない状況にございます。今後とも事業の着実な推進と建設地の確定等、課題の解決に努めてまいります。

10番目の「新郷土資料館の設置」では、歴史的・文化的遺産である文化財の収集・保存・調査・研究活動の充実を図るとともに、その成果の公開や文化財の展示の場として、また区民の学習の場として新郷土資料館の整備を進めてございます。

平成21年度につきましては、いわゆるソフト事業については着実に進展してございますが、建設地の確定など施設整備面については進捗をしてございません。今後とも事業の推進に努めてまい

ります。

1 1 番目の「放課後児童（健全）育成事業の推進」では、区立小学校等において放課後における児童の居場所（「放課GO→」及び学童クラブ機能を付加した「放課GO→クラブ」）づくりに取り組んでございます。平成21年度につきましては、平成23年度に赤坂小学校に「放課GO→あかさか」を設置し、平成23年度に芝浦小学校に設置予定でありました「放課GO→クラブしばうら」を平成22年度に前倒しで設置することとするを内容とした計画変更を行いまして、これを「次世代育成支援対策行動計画」に反映してございます。既存の「放課GO→」及び「放課GO→クラブ」の参加児童数は毎年着実に増加してございまして、平成21年度は延べ10万超となっております。今後とも事業の推進に努めてまいります。

1 2 番目の「スポーツセンターの整備」では、新たに田町駅東口北地区公共公益施設内に建てかえる計画を進めてございます。平成21年度につきましては、基本計画の策定に続きまして、基本設計及び実施設計に取り組んでございます。新スポーツセンターの整備に当たりましては、区民参画による検討組織を通じて、区民の意見を反映した利用しやすいスポーツ施設の整備を目指してございます。今後とも平成25年度の完成に向けて事業の推進を図ってまいります。

1 3 番の「国際コミュニケーション能力の育成を図る教育の推進」では、国際都市である港区の地域特性に対応し、小学校において「国際科」、中学校において「英語科国際」の授業を実施するとともに、全ての学校にネイティブティーチャーを常駐派遣して授業以外の時間でも英語に触れる機会を設けるなど、学習環境の整備を図り、国際理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を備えた、世界の中で活躍できる真の国際人の育成を目指してございます。

平成21年度は、教育特区としての認定から、文部科学省の教育課程特例校としての認可を受け、「国際科」及び「英語科国際」の授業を継続して実施してございます。また、発展的な小中一貫カリキュラムの作成、小学校用テキストの改訂及び中学校用テキストの作成に取り組んでございます。それから、外国人講師による教員対象の英語研修をテンプル大学日本校との連携協力によりまして、—これは平成18年度以降継続して実施しております—教員の英語教育能力の向上に取り組んでございます。これらの取り組みにより確実な成果があらわれており、今後ともより高い成果が得られるよう積極的に取り組んでまいります。

1 4 番目の「土曜特別講座の実施」では、児童・生徒の自主的学習活動の支援と一人一人の子どもの個性や能力を伸ばし、基礎基本の定着と学力の一層の向上を図ることを目指して、小学校並びに中学校で土曜特別講座を実施してございます。

平成21年度につきましては、小学校において科学教室、作文教室を10回実施いたしまして、理科や作文に対する苦手意識がなくなり意欲的に取り組むようになった等の評価を得てございます。また、中学校におきましては、土曜特別講座を20回程度実施し、基礎的、基本的な内容の定着が進んでいる等の評価を得てございます。引き続き講座内容の充実に努めてまいります。

1 5 番目の「読書活動の推進」では、読書活動が、豊かな人間性や「表現力」「読解力」等、全ての学習の基礎となる「国語力」などを育成するために極めて重要であることから、既に平成14年



度から全ての小・中学校にリーディング・アドバイザー・スタッフを配置し、学校図書館の環境整備を行うとともに、「読み聞かせ」や「ブックトーク」による読書活動の支援に取り組んでございます。また、平成17年度から3年計画で学校図書館の蔵書の充実等を図ってございます。結果といたしまして、現在では全ての学校で文部科学省の学校図書標準を達成してございます。また、区立図書館では、図書の団体貸し出しなどを通じて学校の読書活動を支援してございます。これらの取り組みにより、全国平均と比べますと、読書をする児童・生徒の割合が非常に高い数値を示しており、大きな成果を上げてございます。引き続き読書活動の充実に取り組んでまいります。

以上が概要でございます。

なお、資料の8ページ以降は、ただいま概要をご説明しました各事業それぞれの個票となっております。内容につきましては説明を省略させていただきます。

説明は以上です。よろしくご審議の上、ご決定いただきますようお願いいたします。

**○半田委員長職務代理者** ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

**○小島委員** 点検評価の小中一貫校の件なのですが、「主要施策」のうちの「効果・成果」のところ、「小四の壁」という言葉が出ています。今まで「小一プロブレム」とか「中一ギャップ」というのは議論などでかなり出てきましたが、「小四の壁」というのは具体的にはどのようなことなのでしょう。

**○教育政策担当課長** 「小四の壁」は「十歳の壁」という言い方もするのですが、小学校3年生から4年生に上がるときに、急に授業がわからなくなるとか、ついていけなくなる児童が出てくることが多いということでは言われている言葉です。

**○小島委員** それは小4に特徴的に出てくるのですか。「小五の壁」とか「小三の壁」というのはないのですか。

**○教育政策担当課長** 一般的に言われているのが「小四の壁」ということです。

**○指導室長** 補足ですが、従来は、4年生の夏を超えると子どもの精神的な面がかなり大きく変化をしてきたのですが、最近はもうちょっと下になりまして、いわゆる「ギャングエイジ」と言われる小学校3年生から小学校4年生にかけて、いわゆる10歳あたりが精神的な成長が大きいということと、もう一つは、学習の内容が、ちょうど小学校3年生、4年生というと、四則計算といわれる整数の学習が一応終わるのですが、ちょうど3年生から少数や分数が導入されてきて、抽象的な概念が導入されることによって学力もかなり格差が大きくなっていく。そのあたりで4年生の段階をいわゆる「小四の壁」と言っているようですが、まだどうですかね。全国的な広がりを見せていないかもしれません。

**○小島委員** それから、小中一貫教育校は港区としても、教育委員会としても非常に大事な位置付けにしているわけですが、お台場学園については、設置に向けて非常に頑張ってきて、本年度、無事開校したわけですが、評価の点で、評価委員の方から「今後、異動で転入してくる教職員に小中一貫校の基本的な考え方への理解を確実にして……」云々という評価があるのです。今まで、この点については先のことだったので余り考えていなかったのですが、その点についてはもう既に指導

室の方で何か考えているのでしょうか。

○指導室長 具体的なところまでは、まだそういったレベルまでいっていません。ただ、お台場学園の小学校の方は今年度に人がかなり入れかわったというか、新しい人を多く迎えています。ですから、スタートに当たっては皆さん、当然新しい学校の基本的な理念等を踏まえて教育活動をやっていると思います。今ご指摘いただいたとおり、また来年度以降新しく入ってくる方については引き継ぎ等をきちっとしなければいけないという認識はございます。

○小島委員 分かりました。

○半田委員長職務代理者 ほかにございませんでしょうか。

○教育長 ここで2回目、実質的には3年度になるのですか、この評価、年々充実した点検及び評価になっていると私は思っているのですが、その中で、個票を読んでも、評価委員の方々から適切にというか厳しく評価をいただいております。それらについて、教育委員会の方で、こういうことを進めていきます、あるいは改善していきますと述べておることを着実にやっていくことがより重要なことだと思います。したがって、しっかりと進めてもらいたい。

それから、「効果・成果」のところに、できれば数値もどんどん記入してということになっているわけですが、そこで数値もかなり入れてあるわけですね。施設のいろいろな数値というのは入れやすくても、学習状況の効果というのはなかなか数値化しにくいと言われてはいますが、英検などはしっかり数値化されていますので、経年でしっかりと読み取っていく、それが大事なのだと思うのです。それによって、各学校でもさらに充実してもらいたい。ここで合格率60%と出ていて、延べ受験者数が21年度1,094人と。今年度はさらに増えているだろうと思いますけれども、学年別、あるいは年度別に何回もやっているわけですから、そういった取り組みの結果はこの評価とは別にきちんとまとめておいていただくといいのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○小島委員 土曜特別講座実施の件で、今、高橋教育長の方からもありましたように、この評価委員の評価に対して、今後、教育委員会としてどのような対応をしていくのかということです。評価委員の方から、「事業者への指導・助言なども欠かせないことです」という評価が出ているのですが、これに対してはどのように考えて、今後、教育委員会としてどう対応するのでしょうか。

○指導室長 現在は、早稲田アカデミーから学研へと事業者が変わりましたが、声とすれば、PTA連合会の会合に出ますと、「早稲田アカデミーの方がよかった」という声も聞こえてきますが、なかなか参入してきそうできていない状況もあるのです。したがって、もうしばらく現状を見守りたいと思います。最初の年に教育長からご指導をいただきましたので、そのころから比べると現在は少しはよくなったのかなと思いますが、もう1年ぐらい続けてみてはと思っています。そのころから、学習支援というよりは、むしろ事業者が積極的に子どもたちに教えるということへ少し変わってきましたので、よりやりやすい方向へとこちらも体制を整えていこうかなと思っています。

○教育長 この件に関しては、先週、2学期までの学習状況、あとは出席率など学研が報告に来ま

した。私はまた改めて、授業内容とか、学べる空間づくりではないですけども、そういった生活指導面、それから各教室をしっかり統括する責任者の巡回とか、そういったことも含めてお話をしておきました。

あわせて、各学校が学研任せにならないように。土曜特別講座は学校の授業ではありませんが、学校で自分の学校の子どもたちが学んでいるわけですから、その辺はその事業者と手を携えながら、学校の子どもたち、学ぶ生徒一人一人の実力をしっかりと高める。学力向上するのだということで携えてやってもらわないといけないので、このことは改めて校長会の方でも話をしていきたいと思っています。

○小島委員 土曜特別講座の本当のねらいは、今、教育長がおっしゃったようなことだから、それにつながるような形でやっていただきたいと要望しておきます。

○半田委員長職務代理者 ほかにございますか。

○澤委員 個々のことではなくて、原案のときにもお話ししたのですけれども、1ページのこの評価の目的が、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」というので、これは教育委員会の事務局の評価ということになるのか。私が前回言ったのは、さっき教育長が言われたように、英検にしても何にしても、学校現場の教育の質、それを評価できるような内容も積極的に取り入れたらいいのではないかということだったのですけれども、事務管理ということだったので、あれっと思ったのです。ただ、2番の「点検及び評価の実施方法」の中に、「主要事業並びに『教育の港区』の実現を目指した先駆的、特徴的な事業を対象として」ということなので、必ずしも教育委員会の事務局だけということではない。この評価の目的は、「教育の港区」の実現を目指した先駆的な、特徴的なことだけがいいのかどうかはともかくとして、うちの教育の質がどうなっているのかということも、この評価報告書を見るとわかるような内容にできると、より役に立つのかなど。要するに、こういう評価というのは、悪く言えば、やっていけばいいというようなことにもなりかねない。うちの場合は非常にまじめに取り組んでいただいていることはわかるのですけれども、そういう学校現場の教育の成果といいますか、そういうことも入れられるといいと思います。漠然としていて、ではどうやったらいいのかということとはなかなか難しいのかもしれないけれども、そういう視点も大事なのではないかなと。

○小島委員 確かに、澤委員の言うように、事務及び管理の執行の状況だけでは何となく……。やはり「教育の港区」としての公教育の質を高めるものとしてどうだったのだろうかというのが大事であると。ただ、この法律の書き方が何となく分かりにくい面もあるので。

○澤委員 さっき国際コミュニケーションのところで英検とかの成果がきちっと数値的に出ていました。必ずしも教育というのは、教育長も言われているように、数字で全てがあらわされるわけではないのですけれども、できるだけそういう視点を取り入れた評価指標というものにしていただくと、見る方も参考になるのではないのでしょうか。

○小島委員 ただ、質の内容を高めるバックグラウンドとしての校舎の整備とか図書館の整備。

○澤委員 それも大事ですね。

○小島委員　そういう意味では極めて大事なことを取り上げているのだけれども、確かに、事務管理だけかという面からいくとちょっとという感じもします。ただ、バックグラウンドの全部大事なことを挙げているわけだから、これはこれで……。

○澤委員　そう。これはこれでももちろんすごく大事なことです。

○庶務課長　ただいまの澤委員のご質問はごもっともだと思います。事務局でも、教育の質なり成果なりを具体的に示すことが必要であろうという考えは持っていますが、なかなか指標の設定は難しいものでございまして、事務局の大きな課題として認識してございます。今後とも、少しでもそういったものがあわせられるような指標を模索し続けていきたいと考えております。

○澤委員　我々も具体的にどのような項目を入れたらということをもし気がつけば、またお話をさせていただきたいと思います。

○半田委員長職務代理者　それでは、採択に入ります。

議案第2号について原案どおり可決することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

○半田委員長職務代理者　それでは、議案第2号については原案どおり可決することに決定いたしました。

### 第3 協議事項

#### 1 港区立学校施設等使用条例施行規則の一部改正について

○半田委員長職務代理者　続きまして、日程第3、協議事項に入ります。

「港区立学校施設等使用条例施行規則の一部改正について」。生涯学習推進課長、説明をお願いいたします。

○生涯学習推進課長　それでは、資料ナンバー1をご覧ください。

港区立学校施設等使用条例施行規則の一部改正についてでございます。

昨年、学校施設開放に関する検討会というものを開きまして、小学校から2名の副校長先生、中学校から2名の副校長先生に参していただき、学校施設開放に関する事務の検討を行いました。その結果、幾つか改善が必要であるというご指摘をいただきまして、その一部に、使用申請書等が大変使いづらいというご指摘をいただきましたので、その点を踏まえまして、来年度に向けて施行規則を改正するものでございます。

改正内容につきましては、現行では、学校施設使用申請書につきまして学校長の押印を必要としておりましたが、これを学校確認欄へと変更をさせていただきたいと考えております。

学校施設等使用条例では、教育委員会が学校施設の使用を承認する場合、あらかじめ校長先生のご意見を聞くことと規定されておりますが、これを担保するために実務的には申請書に学校長の公印を押印することで確認をしてございました。しかし実際の実務は、学校長以外の職員が学校施設の使用に係る事務を行っている場合が多いので、学校長の公印で確認するのではなく学校確認欄への記載より確認することといたしたいと考えております。

改正理由でございます。ここ数年の間、学校施設の使用者数が各段に増えており、平成17年が8,875件でございましたけれども、平成21年度は1万640件ということで、2,000件近く増加しております。この学校施設における実務担当者の事務量が大変増加しております。担当者が事務を円滑に進めることができるよう、申請手続に係る負担を軽減し、事務処理の効率化を図るため、規定する様式を改めるものでございます。

2ページをご覧ください。新旧対照表で使用申請書及び減免申請書の様式を添付してございます。一番下の欄でございます。あて先は教育委員会で、「上記使用については、支障ありません」ということで、学校長の印を押す欄が規定されてございますが、これを「〇〇学校長」と。例えば小学校長、中学校長ということで変更させていただきたいと思います。

以上です。よろしくご検討いただきますようお願い申し上げます。

**○半田委員長職務代理者** ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

**○小島委員** 学校の施設を開放して区民の皆様に大いに利用してもらうことは大変結構なことで、それが増加しているということも大変良いことなのですが、それによって学校の負担が増えてしまうというのでは本末転倒で、学校の本来の目的は子どもたちの教育にあるわけですから、今の趣旨・目的からいってこれは大変結構なことだと思っております。

そういう意味で賛成なのですが、1点お聞きしたいのは、この表が普通の申請書で、裏が減免申請書となっていますね。表の普通の申請書の「使用料」のところに「1 有料」「2 2分の1免除」「3 免除」と。これは減免ですよ。こう書いてあるということは、2枚目の減免申請書は要らないのではないですか。この1枚で、普通の使用料のも、減ずるのも、免除もみんな入っていると思うのですが、必要なのですか。

**○生涯学習推進課長** 基本的には、使用申し込みにつきましては第1号様式を使うということで規定がされております。第1号様式につきましては、一番初めについているものでございます。これは申し込みの用紙です。別々で、申し出団体の使用申し込み及び使用料減免申請ということで、2条の第1号様式を使う場合での減免の申請をする場合については、第4条の申請書を使ってくださいと二重の規定になっており、通常の場合は1号様式を使います。4号様式につきましては事前届出団体が使用いたします。届出団体というのは、学校を使用する場合に無料で使用できる団体で、その使用申請が大変多いものですから、その場合には裏面の4号様式を使います。それで、様式の色を変えて、団体が使うのか、その団体でない団体が使うのかがわかるような形で規定をしてございます。

**○小島委員** その場合、減免する団体は事前に承認されているということですか。そうすると、その団体が申請すれば、当然、その団体に応じて減ずるのか、免除するのかというのが事前にわかっているのですか。

**○生涯学習推進課長** 事前届出団体は、事前に届出をする団体なのですが、その団体には要件がございまして、届出をすると、学校施設に関しては使用料がかからないという形で規定されておるのでございます。

○小島委員 減ずる団体と免除になる団体とがあるわけですか。

○生涯学習推進課長 はい。

○小島委員 やはりそういう団体は1号の裏で、一般の利用の方は表でやればいいのではないですか。そういうような感じがしますが。

○庶務課長 補足説明をさせていただきます。

今、生涯学習推進課長から説明がありましたとおりです。通常は1号様式で、原則は有料なのですが、社会教育関連の活動をしている団体とか、そういった団体については、事前に届け出があり、なおかつ、区の承認を得た団体については原則免除という扱いをしてございます。その免除の扱いをした団体について、申請の都度、申込書と同時に減免申請書を出していただくというのは、手続きや、事務処理が煩雑になりますので、そういった団体についてはこの4号様式で使用申請と減免申請を一括して扱う、その趣旨で作成されている様式でございます。

○澤委員 そういうことですか。

○小島委員 そうですか。そうすると、使わなくていいのですね。今、第1号様式で、「2 2分の1免除」「3 免除」というのは要らないのではないかなと。

○生涯学習推進課長 それ以外に、ご使用になる場合で免除になったり、2分の1の免除になる場合が規定されてございます。その場合には、第1号様式を使って申請をしていただき、そのほかに免除申請書というのがございますので、それも出していただくことになります。

○小島委員 なるほど。この1号様式を出す人と4号様式を出す人は全然違うと。

○生涯学習推進課長 はい、別でございます。

○小島委員 なるほど、そういうことですか。

○澤委員 減免の申請書というのが、この裏面とは別にあるということですか。

○生涯学習推進課長 はい、ございます。

○澤委員 そうですか、分かりました。町会などで使うときは1号ですか。

○生涯学習推進課長 町会・自治会につきましては事前届出団体の要件に該当いたします。申請をしていただくと、定期的にお使いになる場合には無料で借りられます。ただ、事前届け出団体は、そこに登録されている全員の名簿を添付する必要があるございますので、町会・自治会で何百人の名簿を添付するということはなかなか難しい場合がございます。その場合には、例えば区、または区の行政委員会と共催で使用するか、区または区の行政委員会で使用するときは免除という形になってございますので、所管課からの申請をいただきまして、免除で利用していただいています。

○教育長 ということは、ほとんどがこの4号様式を使っているということですか。

○生涯学習推進課長 4号様式のご利用がほとんどでございます。

○教育長 そうですね。有料での利用はほとんどないですね。まあ、整理ができるのであればこういういい機会なので直してはどうですか。

○生涯学習推進課長 ほかによろしいでしょうか。

○澤委員 一般的な話ですが。

今回こういう具体的な要望が出てきて、なるべく学校現場の事務の手続を簡素化する、これは非常にいいことだと思います。ただ、確認したいのは、これが出てくるバックグラウンドとして、今、課長が学校現場等と話し合いをされた。そういう中で、ほかの要望とかで重立ったものは何かあるのですか。

要するに、今の課長の話ですと、このところ、急激にというか、利用数がかなり増えている。この後で報告していただけるのか、平成22年度は平成21年度に比べると現時点で600件以上増えているので、現場として、そういう要望が出た。ほかに何か重立ったものがあればお話ししていただきたい。

**○生涯学習推進課長** ご要望の主なものは3点ございました。

使用申請書が使いづらいというのが一つ。二つ目が、シルバー人材センターのシルバーさんに夜間の受付などをお願いしておりますけれども、本来であれば、シルバーさんの中で事務についての研修がきちっと行われた上で配置されるべきものですが、新しいシルバーさんが配置された場合に、学校側で、こうですよ、ああですよとご説明するような場合があるので、これは委託契約ですから、契約の中でしっかりと指導するようにしてくださいというご意見、ご要望がございました。

もう一つは、学校の施設の利用に関しての新規のお問い合わせが直接学校にいています。例えば小学校の体育館ですと、利用できる競技というのが限られてきます。余り大きい体育館ではありませんので、実際には使えないような競技の方から直接学校に、この小学校はどうなの、この小学校はどうなのということでお問い合わせが来て、「その競技ではうちは使えませんよ。ほかのところを当たってください」というご説明を学校でしているということでした。学校の規模やできる競技、利用できるものを一表にまとめて、来年度から私ども生涯学習推進課が、新規の最初の窓口となり、どのようなことにお使いになりたいのかということで学校をご案内するようにしたいと考えています。大きな改善点は、以上3点でございます。

**○澤委員** 学校現場がそういう具体的な要望を出していて、それを大竹生涯学習推進課長のところで前向きに受けとめてもらっているということは、すごくありがたいことだと思います。

**○半田委員長職務代理者** それでは、この案件はよろしいでしょうか。

#### 第4 教育長報告事項

##### 1 放課後児童育成事業（放課GO→）の運営事業者の候補者選定結果について

**○半田委員長職務代理者** 次に、日程第4、教育長報告事項に入ります。

まず初めに、「放課後児童育成事業（放課GO→）の運営事業者の候補者選定結果について」。生涯学習推進課長、説明をお願いいたします。

**○生涯学習推進課長** 資料ナンバー2をご覧ください。

放課後児童育成事業（放課GO→）の運営事業者の候補者選定結果について、ご報告を申し上げます。

去年、この教育委員会にご報告を申し上げましたが、私どもが所管している放課GO→6校のう

ち、4校の放課G O→につきまして運営事業者の委託期間が5年となりましたので、4校につきまして再選定を行いました。

再選定を行った結果、(1)から(3)までの放課G O→みた、あざぶ、ひがしまちにつきましては、現在の事業者が選定され、放課G O→せいなんにつきましては、新たにパソナフオスターというところに事業者が決定したものでございます。4校とも委託期間は平成23年4月1日からですが、おおむね毎年事業内容を点検いたしまして、1年ごとに、契約を更新して、概ね5年間契約を更新することとしてございます。

裏面をご覧ください。応募状況でございます。みたについては8事業者、あざぶ、ひがしまち、せいなんにつきましては11事業者が応募してございます。選考方法につきましては、第1次選考で、申請書類及び事業計画書類について、財務諸表分析、事業計画書に対する評価をもとに総合的な審査を行い、それぞれ応募事業者のうちから3事業者を選定いたしまして、第2次選考を行ってございます。第2次選考につきましては、プレゼンテーションとヒアリングを行いまして、第1次選考、第2次選考を合わせた総合評価により候補者を選考したところでございます。

今後、区の業者選定委員会がございすけれども、この結果をかけまして候補者をきっちと確定させ、来年からの契約をしたいと思っております。

別紙でございすけれども、選考委員会を設置いたしましたので、その選考委員の一覧でございす。それぞれ5人の選考委員の皆さんでございす。学識経験者2名、区内関係団体の代表者――これは各校に設置されております放課G O→協議会の会長さん、それから学校長、それと教育委員会事務局から次長が選考委員となっておりまして、5名で構成されているものでございす。

以上、選考結果についてのご報告でございす。

**○半田委員長職務代理者** ただいまの説明に対してご質問はございすでしょうか。

**○澤委員** これは最長5年ということで、先ほどの確認ですけれども、それぞれが開設してから何年かが問題ですけれども、一応5年を全て満了してということですか。

**○生涯学習推進課長** 委託開始が平成18年のところが4校あったということで、次年度は、19年に事業者を選考したところ2校について、選考いたします。

**○澤委員** 大学なども同じですけれども、子どもたちを相手にしていただく場合に、ある程度顔見知りになって、子どもと親しくしてもらおうということも大切です。だから、ころころ変わっては子どもたちも戸惑うというところもあるので、5年ぐらいが妥当なのかなと思うのです。それで、(1)(2)(3)は継続ということなので、順調にいけばまた5年ということですね。せいなんの場合、変更になった理由というのは何ですか。どこが悪かったのか、今回、応募事業者数が11事業者と競争率が結構厳しいですよ。今度の新しいところはどこがよかったのか教えてもらえますか。

**○生涯学習推進課長** やはり現在やっております事業者は、学校の状況や地域の状況が大変よくわかっていたんですが、今回新たに選考された事業者の方が大変意欲的で、地域や学校の特色等を自分なりに調査し、地域もよく歩いて把握をしていたということ。それから、事業の中身の提案が、児童一人一人のケアを十分に行えるような事業提案でございましたので、総合的に、現在の事業者よ



りも評価が高かったものと考えています。

○澤委員 なるほど。パソナフォスターというところはあざぶで既に5年間やっていたいているところなのですね。提案内容などで、今回選ばれた事業者の方が明らかに上だったと、そういうことですか。

○小島委員 応募業者が8社とか11社あるわけですが、この業者さんというのは、「放課G O→」を専門に行っている業者さんなのですか。それとも、主としてどのようなことをやっている業者さんなのですか。

○生涯学習推進課長 放課G O→の募集要項の中に、同様の事業を展開しているということがもちろん条件になっております。学童クラブ事業とか保育事業、それから、他区での放課G O→のような事業を実施している事業者が手を挙げてございます。

○小島委員 これに関するかなり専門的な業者さんですね。

○澤委員 そうですか。

○生涯学習推進課長 追加なのですけれども、放課G O→ひがしまちにつきましては、一応、放課G O→で事業者を選考いたしました。来年度から学童クラブを設置するというので、既にご報告をさせていただいております。募集の段階では放課G O→だけでしたけれども、ひがしまちにつきましては、もし年度途中で学童クラブがついた場合にも事業が実施できるのかということを選考の中でお聞きしまして、そういった視点も加味させていただいております。放課G O→ひがしまちにつきましては、平成23年4月から学童クラブを設置いたしますが、その後、関係課と協議いたしまして、23年4月からは、教育委員会の手を離れまして、麻布地区総合支所に事務が移管することが決定をしておりますので、あわせてご報告をさせていただきます。

○小島委員 この日本保育サービスさんが引き続きやるということですね。分かりました。

○半田委員長職務代理者 それでは、この案件はよろしいでしょうか。

## 2 港区立芝給水所公園運動場の休場について

○半田委員長職務代理者 次に、「港区立芝給水所公園運動場の休場について」。生涯学習推進課長、説明をお願いいたします。

○生涯学習推進課長 それでは、資料ナンバー3をご覧ください。

港区立芝給水所公園運動場の休場について、ご報告申し上げます。

ここは人工芝のサッカー場になってございますが、人工芝の劣化に伴いまして、人工芝の全面張りかえ工事を行う必要がございます。そのため、23年1月11日から3月4日までの間、休場いたします。利用者への周知方法でございますけれども、芝給水所公園運動場を使っている団体はかなり限定されておりますので、館内ポスターの掲示、それからホームページへの掲載でお知らせしたいと考えてございます。

以上でございます。

○半田委員長職務代理者 ただいまの説明に対してご質問ございますでしょうか。

○教育長 二つあります。

一つは、皆さんにお知らせするという意味を含めて、この人工芝はどのような芝の内容なのかということ。今、学校の校庭で使っているようなロングパイル、つまり、F I F A公認のそういった芝なのかどうかということと、もう一つは、ここはもともと人工芝だったので、人工芝をはがせば人工地盤になっているはずでならす必要がありません。ですから、通常の工程の工事よりも短くて済むのかなと素人考えでは思うのです。通常の工程は、1回はがして、土をならして、きれいにし、やっていかなければならないので結構時間がかかると思うのですけれども、技術的なことを説明して下さい。

○生涯学習推進課長 芝につきましては、学務課の管理ではなく、区長部局の土木課の公園係が所管してございます。芝につきましては、学校で使っているようなロングパイルの芝でございます。人工芝の中でも一番いい芝です。

○教育長 安心しました。

○生涯学習推進課長 それから、工事の期間でございますが、これでも短縮をされております。もともと丸々2カ月かかるということだったのですけれども、2カ月以上ですね。12月の終わりから3月の初めまでかかるということだったのですけれども、はがして、少しならさなければいけないところもあるそうで、ならして、それで張りかえるという工程だったものを、はがし、ならし、つけるというのをそれぞれ組み合わせるような形で休場期間を短くするという事で工夫をした結果と聞いております。

○教育長 これは素人判断ですが、学校でもこのぐらいの時間はかかるのですね。これよりももう少しかかっています。でも、それは手間暇かかるのでしょうがないのですね。もともとが人工地盤なのでどうなのかなと。そこの期間が、芝の張りかえというのは結構時間がかかるのですね。張る状況になればあつという間に張っていくので、地ならしのところが一番大変。あと、外構部分でしょうか。そう思ったものですから。できるだけ短縮して、いい環境の中で少年たちにこの運動公園で思いきりサッカーなどをやらせてもらえればうれしいなと思います。よろしくお願いします。

○澤委員 これは、開設して初めての張りかえということですか。

○生涯学習推進課長 初めての張りかえです。

○澤委員 何年ぐらいたっているのですか。

○生涯学習推進課長 ほぼ8年ぐらいです。

○澤委員 そうですか。使い方にもよるのでしょうか、結構長持ちはしているのですかね。

○生涯学習推進課長 耐用年数は大体10年と言われておりますが、今どきの芝よりも劣化が激しく、子どもたちが使っていると芝は切れて衣服にまとわりつくような状態になっていますので、10年を待たずに予算要求をいたしました。

○教育長 もともとの人工芝と全然違うのです。

○澤委員 8年前の人工芝とですか。

○教育長 はい。昔の人工芝は衣服につくどころではなくて、歩くだけで皮靴に全部ついてくる。

しかし、年々の進歩が大変目覚ましいものがあり、今、区で入れているのは、人工芝の1本1本がしっかりしているのです。

○小島委員 材質が全然違う。

○教育長 だから、以前のはすぐすり切れてしまったりとか、静電を帯びて靴だとか衣服についてしまう。

○小島委員 では、これから入れるのはもっと……。15年ぐらいなのですか。

○生涯学習推進課長 学校の校庭とあわせて改修しようと考えております。隣近所の方も、風が吹くと芝が飛んでくると言うのです。そういうご要望もあって改修することになりました。

○小島委員 なるほど。そういうご意見もあるのですか。

○教育長 確かにそうでしょうね。

○半田委員長職務代理者 今日からもう休場しているということですね。これはどのぐらい前からホームページに掲載されたりとか、館内ポスターで掲示していたのでしょうか。私、今日初めて知ったものですから。

○生涯学習推進課長 利用団体には事前に、このぐらいの期間から使えなくなりますということで、去年の段階からお知らせしています。利用団体が限られていますので事前にお知らせをしています。また、12月に周りの住民の方々にお話をする協議会がございました。工事につきましては、契約が落札されてからやっと日程が確定しますので、12月の段階で住民の方にはその状況をお知らせしています。ただ、ホームページにつきましては、確定したのが12月でしたので、1月に入ってから掲載になっておりますが、利用団体には不便がないように事前にお知らせをしているところでございます。

○教育長 利用団体の方たちはもう今までの芝ではないのだと、とても喜んでいます。

○澤委員 ちょっとの間でできないけれども、皆さん、そういう期待を寄せているのですね。

○半田委員長職務代理者 それでは、この案件はよろしいでしょうか。

### 3 港区赤坂小学校屋内プールの休止について

○半田委員長職務代理者 次に、「港区立赤坂小学校屋内プールの休止について」。生涯学習推進課長、説明をお願いいたします。

○生涯学習推進課長 資料ナンバー4をご覧ください。

港区立赤坂小学校屋内プールの休止について、ご報告を申し上げます。

去る12月24日の金曜日に、赤坂小学校屋内プールのプール濾過機が故障したため、現在、休止になってございます。特別な濾過機ということで、現在、学務課の方で発注をしていただいておりますが、修理に若干時間がかかるということで、期日が定まっておりません。利用者への周知方法につきましては、(1)から(5)で皆様方にお知らせをしているところでございます。休止の期間が確定をいたしましたら、直ちに利用者にはわかるような形でお知らせしていきたいと思っております。

以上です。

○半田委員長職務代理者 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○小島委員 この濾過機が故障してしまうとプールは全然使えなくなってしまうわけですね。この濾過機というのは結構故障するものなのですか。

○生涯学習推進課長 去年、ちょうど10カ月ぐらい前の話ですけれども、同じ赤坂小学校屋内プールのボイラーが故障しております。開設から15年ぐらい経って、設備機器の耐用年数の時期に差しかかっているのではないかと思います。学務課と十分に連携をとりながら点検をしていきたいと思っています。

○教育長 今、生涯学習推進課長が申し上げたとおり、耐用年数というのは仕方のないことです。ですから、毎年毎年の定期点検の中でそういうことは早目に見つけて、計画的に修理、入れかえ等できるような形が一番大事なのだらうなと思います。これはプールだけに限らずです。先ほどの学校の施設の利用団体が非常に増えているということがありますので、その辺、先を見とおしてやっていくということが一番大事だと思いますので、お願いしたいと思います。

○半田委員長職務代理者 それでは、この案件はよろしいでしょうか。

#### 4 第68回国民体育大会（東京国体）の港区における準備組織について

○半田委員長職務代理者 次に、「第68回国民体育大会（東京国体）の港区における準備組織について」。生涯学習推進課長、説明をお願いいたします。

○生涯学習推進課長 それでは、資料ナンバー5をご覧ください。

第68回国民体育大会（東京国体）の港区における準備組織について、ご報告を申し上げます。

国体におきましては、資料の図の中段をご覧くださいますと、「実行委員会」というのがございますけれども、国民体育大会開催基準要項第24条で、会場地——これは正式種目等の会場地でございますけれども——になっている自治体には、実行委員会の設置が義務づけられてございます。実行委員会を設置するには幾つかの方法がございまして、準備委員会から実行委員会に移行する方法、それから、発起人会を設立いたしまして準備委員会に移行する方法、それから、全く何もないところから、ぱっと実行委員会を設置する方法と3種類ございますが、内部でいろいろ検討した結果、少数の発起人会を設立いたしまして、その中で実行委員会の内容を決定して、実行委員会の設立につなげていこうと考えてございます。

次のページをご覧くださいますと、今後のスケジュールでございます。22年度の、「発起人会」というところをご覧くださいますと、まず、準備の報告ということで、本日、教育委員会に報告をさせていただいてございます。この後、庁議や議会に報告をさせていただきまして、来年の4月頃に発起人会を設立したいと思っています。それから、23年6月を目途に、実行委員会の第1回総会を開きまして、国体の準備に取りかかっていきたいと考えているところでございます。

そして、発起人会ですが、1ページ目にお戻りいただきますと、発起人の例でございますけれども、市区町村ではいろいろな工夫をしておりますが、区長、議長、体育協会の会長や教育長、そ

れからキスポーツ財団の理事長のみなさんがこのメンバーの中に入ってくるのではないかと考えております。

それから、実行委員会でございます。これも各地方自治体で異なりますけれども、発起人会のメンバーを含んで、そのほかに競技団体、学校・教育関係、警察・消防、医療・通信・運輸、その他衛生関係等の代表者の方に集まっていたいて、大体50名から100名ぐらいの規模を予定しているものでございます。

また、実行委員会は意思決定機関ですので、その下でいろいろなことを検討する常任委員会というのを持ちたいと考えております。

また、実動部隊ということで、実施本部を設置いたします。これはみなと区民まっりのいろいろな部会に相当するようなものと考えていただければいいかと思っておりますけれども、実施本部の中に部会をつくりまして、国体のリハーサル大会、本大会を運営する実働組織としていきたいと考えているところでございます。

国体の準備組織については以上でございます。

それから、3ページ目をご覧くださいますと、国体に関係した情報提供ということで、まずマスコットが決まったことはご報告いたしました。愛称が決まりました。愛称につきましては「ゆりかもめ」と「アスリート」を合わせまして、「ゆりーと」という名称に決定してございます。

次の資料をご覧くださいますと、国民体育大会の競技別会期が決定したということで、これも東京都の方から報告が来てございます。

最後のページをご覧くださいますと、マーカーで印をつけてございますけれども、なぎなた・港区ということで、25年9月29日日曜日から10月1日火曜日までが会期ということで、9月29日日曜日になぎなた競技のオープニングセレモニーを実施し、その後、競技に移っていくということで予定をしてございます。

以上、報告でございます。

**○半田委員長職務代理者** ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

では、この案件もよろしいでしょうか。

## 5 生涯学習推進課の12月事業実績と1月事業予定について

**○半田委員長職務代理者** 次に、「生涯学習推進課の12月事業実績と1月事業予定について」。この件につきましては、資料の配布をもって報告いたしますので、後ほど資料6をご覧くださいませようお願いいたします。

特に何か報告することはございますでしょうか。

**○生涯学習推進課長** 12月分のところでございますけれども、一番上、六本木地域でノルディックウォーキングを夜間に実施しまして、参加人数は少なかったのですが、大変目立ったようでございます。「何で目立ったのか」ということを体育指導委員の皆さんにちょっとお聞きしましたら、ウェアが派手だったということがあったようで、体育指導委員が真っ赤なウインドブレーカー

をおそろいで着て、夜の六本木を練り歩いていて大変目立っていたということでございました。

以上です。

○半田委員長職務代理者 クリスマスの中をああいう方が通過するとびっくりしますよね。今後はもうないのですか。

○生涯学習推進課長 この六本木の前に御成門地区でも実施したのですが、今のところ、ノルディックウォーキングの実施予定は聞いておりません。

○半田委員長職務代理者 大変興味がありますので、何かあるときは教えてください。

では、この案件はよろしいですか。

## 6 生涯学習推進課の各事業別利用状況について

○半田委員長職務代理者 次に、「生涯学習推進課の各事業別利用状況について」。この件につきましては、資料の配布をもって報告いたしますので、後ほど資料7をご覧くださいませようお願いいたします。

特に何か報告することはございますでしょうか。

○生涯学習推進課長 後ろから2ページ目の「学校屋内プール」から「遊び場開放」のところは、学校施設の利用の合計表になってございます。それで、中段の表ですけれども、先ほどの学校施設の開放状況がこの表になってございまして、去年と比べると、やはり600件ほどふえています。このままいきますと、1万件は優に超えてしまうという状況でございます。

以上です。

## 7 図書館・郷土資料館の12月行事実績と1月行事予定について

○半田委員長職務代理者 それでは、次に「図書館・郷土資料館の12月行事実績と1月行事予定について」。この件につきましても資料の配布をもって報告いたしますので、後ほど資料8をご覧くださいませようお願いいたします。

特に何かご報告はございますでしょうか。

○図書・文化財課長 12月はクリスマスシーズンということで、お子さん向けのクリスマス系の行事を各館で実施しまして、たくさんの方にご参加いただいたということでございます。

## 9 1月指導室事業予定について

○半田委員長職務代理者 次に、「1月指導室事業予定について」。この件につきましても資料の配布をもって報告いたしますので、後ほど資料10をご覧くださいませようお願いいたします。

特に何かご報告することはございますでしょうか。

○指導室長 特にございません。

○半田委員長職務代理者 それでは、本日予定している案件は全て終了しましたが、庶務課長、そ

の他、何かございますでしょうか。

○庶務課長 急で申しわけございませんが、教育長報告事項が1件ございます。本日の日程に追加していただくようお願いいたします。

○半田委員長職務代理者 日程追加についてお諮りします。

お手元に配布いたしました印刷物のとおり、本日の日程に教育長報告事項を1件追加したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

○半田委員長職務代理者 ご異議なきものと認め、本日の日程に教育長報告事項を1件追加します。

## 10 新郷土資料館の候補地について

○半田委員長職務代理者 では、「新郷土資料館の候補地について」。図書・文化財課長、説明をお願いいたします。

○図書・文化財課長 それでは、日程の方に追加ということでご提出させていただきました新郷土資料館の候補地につきましてご説明させていただきます。

港区は、伊皿子貝塚を初めた古代・中世の遺跡を多く残しているとともに、特に幕末から近代初頭にかけては、歴史上さまざまな事件の舞台となっておりまして、港区郷土資料館におきましては、それらの膨大かつ貴重な資料をこれまで蓄積してまいりました。

教育委員会では、現郷土資料館を昭和57年に三田図書館4階に開設しておりますけれども、こちらの方でこうした貴重な資料の公開、活用を通じまして、これまで区民の生涯学習に対する要望にこたえてまいったところでございます。しかしながら、建物・設備の老朽化等、また展示・収蔵スペースの狭隘化によりまして、新たな郷土資料館の設置が以前から必要ということで、港区基本計画、教育振興プランにも計上しているところでございます。

過去には、新たな郷土資料館の設置に向けまして、第1次、第2次の基本構想までは策定をしましたがけれども、具体的な候補地の決定に至らず現在に至っております。つきましては、早期の設置を目指しまして、平成21年3月に区が取得しました旧国立保健医療科学院跡地、旧公衆衛生院の跡地でございますけれども、こちらを候補地としまして具体的な庁内での協議を進めてまいりたいと考えてございます。本日はその方向性についてのご報告ということでございます。

下の方に記載してございますけれども、1番目、経過でございます。先ほど申し上げましたように、昭和57年4月に三田図書館4階に港区立港郷土資料館を開設してございます。その後、平成9年3月には港区新郷土資料館基本構想を策定しておりまして、引き続き、平成17年9月に第2次基本構想を策定しているというような状況でございます。

今回の旧国立保険医療科学院跡地でございますけれども、こちらを候補地とした理由でございます。まず、建物でございます。3番目の「敷地・建物概要」に記載してございますけれども、昭和13年10月の竣工でございまして、築年数で72年ほど経過しているということで、歴史的な建造物としての価値を持っています。この建物につきましては内田祥三という方の設計になっており

まして、この方は、東大の安田講堂等、国の登録文化財となっているような建造物の設計をされている方でございます。そういった方の手による設計の建物であるということで、建物としての価値があるということでございます。

2点目としまして、十分な展示スペース、事務スペースが確保できる見込みがあるということでございます。現在の郷土資料館につきましては、展示スペース、事務スペース等を含めまして800平米を少々超える程度ということで、展示スペースが非常に狭いことによりまして、資料を多くの皆様にご覧いただけないという状況がございます。また、展示がえ等におきまして休館をせざるを得ないというような状況も招いております。さらに、資料の方の収蔵スペースが確保できないことから、今、区内のいろいろな場所を収蔵スペースとして活用しているところでございますけれども、その収蔵スペースも定まった収蔵スペースというのがなかなかとれなくて、区の方のさまざまな事業の都合等によって収蔵スペースを移さなければいけないというような状況を繰り返しているということでございます。こちらの施設につきましては、そういった面からは十分な収蔵スペース、展示スペースが確保できるようになるということでございます。

3点目としまして、こちらの建物は地下鉄の白金台駅に直結しております。それから、都営バスの停留所にも近いということで、交通の便がよいということでございます。

4点目としまして、近隣には瑞聖寺、こちらは国の重要文化財になってございます。また、自然教育園、こちらの方も国の天然記念物、あるいは史跡という扱いになってございます。それから、庭園美術館、こちらは旧朝香宮邸が都の指定文化財というような扱いになってございまして、そういったさまざまな歴史的、文化的な施設に隣接した恵まれた環境となっているということが当該地を候補とした要因になってございます。

3番目の「敷地・建物概要」でございますけれども、所在地につきましては、港区白金台4-6-1でございます。添付の資料に「参考資料」という形で案内図をお付けしてございますので、こちらもあわせてご覧いただければと思います。

白金台駅のすぐ近くでございまして、東京大学医科学研究所の附属病院に隣接したところで、目黒通りから入ったすぐのところでございます。道路のはす向かい側は八芳園の敷地があるという状況でございます。

敷地面積でございますけれども、1万1,173.2平米ということであります。かなり大きな敷地になってございます。建物規模ですけれども、こちらの方は、先ほどの案内図を1枚おめくりいただきますと、かなり小さくなってしまっていて恐縮なのですが、現状の各階の平面図をつけてございます。建物としましては、地下2階・地上5階となっておりまして、その真ん中部分、建物の中央部分の、6階より上が塔屋となっておりまして、これが3階あります。延べ面積としましては全体で約1万5,000平米ということでございます。

資料の方を1枚おめくりいただきまして、4番目、「活用案」でございます。所管課の方で、この施設はこんな使い方ができるのではないかとということで検討した活用の案でございます。先ほどの参考資料のとおり、建物としては5階建て、さらにその上に塔屋があるという建物でございますけ



れども、今回、新郷土資料館としての活用につきましては、地下2階・地下1階・1階・2階・3階ということで、地下2階から3階まで約9,600平米を使用したいということで、用地活用の担当所管課の方に要望を上げているところでございます。

それから、活用案の方の平面図をご覧くださいと思います。

まず、平面図の1枚目が1階部分となっております。1階部分につきましては、主に展示スペースということで考えてございます。この建物は、コの字を横にしたような形になっておりまして、中央部分の入り口から入っていきまると、両ウイングに建物が延びているというような形態の建物になってございます。右側につきましては、企画展等を展示する部門等を考えてございます。ウイングの左側につきましては常設展示ということで、今のところ、考えてございます。それから、1階の中央部分でございますけれども、ここににつきましては、先ほど申し上げましたように、この建物はかなり歴史がある建物でございまして、設計者のさまざまな工夫等もありまして、意匠に非常に凝った建物になってございます。そういった意味で、特に1階の中央の部分につきましては、中の造作等も凝った建物になってございます。この建物自体も、そういった郷土資料館としての活用とあわせて、建物自体の文化的な価値、歴史的な価値も踏まえて、保存という視点も考えてございます。中央部分につきましては、建物そのものをなるべく現状の形を残すような形で保存して、それをまたさらに来館者の方にも見ていただくという考え方で、建物保存という考え方で中央部分については考えてございます。

それから、1枚おめくりいただきまして2階部分でございます。2階部分につきましては、建物の右側のウイングといいましょうか、右側のウイングの先頭の方に「展示2（建物保存）」となっております。こちらの方につきましては、講堂がございまして、2階、3階が吹き抜けのような形になって階段型の講堂になってございます。こちらの講堂につきましても、意匠等にかかなり凝った部分になってございまして、先ほどの中央の部分と同様に、建物保存という形で、現状のものをなるべく生かすような形で建物自体を見ていただくという形で活用したいと思っております。また、講堂ですので、多分360～370人が座れるような構造になっていると判断してございますけれども、これもさまざまな講演会ですとか講義等で活用しつつ、建物の保存を図っていくということで考えてございます。また、その先は書庫ということで考えてございます。

左側ウイング、左側の先頭の部分につきましては、さまざまな資料の収蔵庫としての活用を考えてございますけれども、中央部分の白く抜けているところ——本当のセンターのところは、先ほど申し上げたように、建物保存で、そのまま2階にも上がっていきましても、両ウイングの中央部分に近い部分、白くなっている部分につきましては、できたら、2階の床を抜いてしましまして資料館としての活用ということで展示室の高さというのが必要になってまいりますけれども、この建物は現状でいきますと、恐らく3.5メートルぐらいまでの高さしかとれないということがございます。ここににつきましては、床を抜いてしまって、1階部分の吹き抜けという形で活用したいと考えてございます。ただ、建物の2階のこの部分全てを吹き抜けとして活用できるかどうかにつきましては、今後さらに具体的な構造上等の検討が必要になってまいります。所管課ではそのよ

うな利用の仕方をしたいと考えてございます。

それから、さらにもう1枚おめくりいただきますと、3階部分でございます。3階部分につきましては、やはり中央部分につきましては建物保存という形になってございますけれども、右側のウイングにつきましては、2階の講堂がそのまま上がってくるという形になってございます。

それから、右のウイングの講堂の上の方といいますか、中央に近い部分につきましては、現在の資料館で、さわれる展示室をやっておりますけれども、そういったものをさらに発展させて、体験学習ができるような展示の仕方をしていきたいと考えてございます。

また、左側のウイングですけれども、左側中央に近い方につきましては管理部門、ウイングの先の方につきましては調査部門ということで、管理・調査のスペースということで考えてございます。また、一番先頭の部分につきましては特別収蔵庫ということで、例えば温度ですとか湿度ですとか、そういった注意が必要な資料につきまして、特別収蔵庫ということで考えてございます。

それから、さらにもう1枚おめくりいただきますと、今度は下に下がりまして地下の図面になります。地下1階につきましては、全て収蔵庫という形で活用したいと考えてございます。

それから、さらにもう1枚おめくりいただきまして、地下2階の平面図でございます。左ウイングの地下2階という形になります。こちらにつきましては、一番先頭の下の方に「保存処理」となっておりますけれども、こちらの方はいろいろな収蔵物等、あるいはほかの施設から特別展等でお借りするような資料がある場合があるかと思っておりますけれども、搬入してきた資料の開梱ですとか、返却資料の梱包ですとか、未整理資料の保管ですとか、そういったことでさまざまな処理に活用したいと考えてございます。また、その上部につきましては倉庫として活用したいと思っております。地下2階中央部分の白く塗ってあるところにつきましては、現状の施設としては、ボイラー室ですとか、倉庫ですとか、機械室等が入っている部分でございますけれども、こちらにつきましては、現状では活用の方法というのは特に考えてございません。この場所はそういったいろいろな設備や何かが入っているものですから、あえて手をつけないでということも場合によってはあるかもしれませんけれども、今後検討をしてみたいと思います。

ということで、地下2階から3階までを新たな資料館としての活用ということです。これはあくまでも現時点での担当課の案ということで、こんな使い方を今検討していますということでの報告でございます。

それから、資料の2枚目に戻っていただきますと、活用案の下に2点ほど「・」を打ってございます下の方の「・」でございます。今申し上げたような活用を検討してございますけれども、何せ既存建物の改修ということでございます。なおかつ、歴史的・文化的価値も踏まえ、建物の保全を踏まえた活用ということになります。そういったことから、資料館ということでございますので、例えば資料搬入用の大型エレベーターの設置が必要になってきますけれども、例えばその大きさですとか。あるいは、この建物はもともととは研究施設ということがございまして、部屋はかなり小割りになっているという構造でございます。展示スペース確保のためにはそういった壁を撤去して広い展示空間をつくらなければいけないということがございます。これについては撤去を考えてござ

いますが、柱につきましては、構造上なかなか撤去が難しいというような状況もございます。そういった意味で、この建物の資料館としての活用については一定の制約というのはどうしても生じてしまうといった面もございます。

続きまして、5番目、「今後の予定」でございます。今後、庁内でさらに検討を進めてまいりまして、平成23年度には改修基本構想、基本計画の策定を考えてございます。平成24年度に改修の基本設計、24年度の途中から25年度にかけまして改修の実施計画、26年度から27年度にかけまして改修工事、27年度、あるいは28年度に開設ということで、おおまかな予定としてはそのようなスケジュールを考えてございます。

最後に、6番目、「その他」でございます。当該建物につきましては、郷土資料館とあわせまして、学校歴史資料室を併設することとして考えてございます。今、この資料につけました地下2階から3階までにつきましては郷土資料館の施設ということでご説明させていただきましたけれども、参考資料の方にございます4階、5階につきましては、用途をさまざま検討していく中で、例えば4階部分の一部に学校歴史資料室を併設するということも今後検討してまいりたいということです。

また、この建物はかなり大きな建物でございますので、教育委員会所管の施設以外に、保健所の方の所管になりますけれども、(仮称)在宅緩和ケア支援センター、あるいは、地域の区民の方のご利用になる地域利用施設といった施設との複合施設となることが検討されてございます。今後、庁内での調整が進みましたならば、再度、本委員会の方に協議事項として改めてご提出させていただきたいと考えてございます。

ご説明は以上でございます。

**○半田委員長職務代理者** ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

**○澤委員** 確認なのですが、現在、800㎡と言われていましたが、それは分散している場所は含めないで、本拠地ということですか。

**○図書・文化財課長** はい。今の三田図書館の4階部分が八百数十平米ということです。

**○澤委員** それが何しろ9,600㎡になるというのですから、これは教育委員会としては非常に画期的な施設に変貌するということですね。私も記憶をたどると、たしか外からちらっと見たことがあるのですが、区の郷土資料館の建物としては、ルーブルとか大英博物館にはかなわないにしても、かなり趣のある歴史的なバックグラウンドを感じさせるようなすばらしい建物だと思います。今までの研究所だったので、郷土資料館としての使い方という点では幾つか問題といいますか、使い勝手という点ではいろいろあるのだろうと思いますけれども、基本的にはすばらしいことだと思います。

それで、確認したいのですが、郷土資料館としては、地下2階から地上3階までということです。この2階の部分というのは、一部、収蔵庫とありますが、あとのところは何になるのでしょうか。

**○図書・文化財課長** 中央部分に近い部分のところでしょうか。

**○澤委員** いや、中央部分に近いところは床を抜いて高さを高くしますね。床を抜く部分というの

はこの図面でどこまでをいうのですか。

○図書・文化財課長 この線がちょっと薄くなってしまっていて見づらいかもしれませんが、色がついていない部分がございますね。白くなっているところ。ここに薄くバツテンが引いてあるかと思えますけれども、この部分について床を取って1・2階の吹き抜けという配置になります。

○澤委員 では、この中央の左右のかなりの部分の床を抜いて背を高くする。そういうことですか。わかりました。

○図書・文化財課長 補足でございますけれども、これは所管課の方も利用の仕方によってこんな利用ができるのではないかと考えてございます。実際にこの吹き抜けにつきましては、中央の白い部分の真ん中の両わきに各部屋がありまして、真ん中の部分が廊下のような形になってございますけれども、この廊下部分まで全部抜けるかどうかというのを今検討しているというところでございます。もしかすると、この真ん中の廊下部分は残ってしまう可能性もございます。

○澤委員 それはいずれにしても今後の検討結果ですね。わかりました。ありがとうございます。

○小島委員 長年の待望の新郷土資料館の候補地ということで固まってきたということは非常に喜ばしいことです。

今、写真も拝見しましたが、この周りの桜がすばらしいのです。時々ここでお花見をしたことがあるのですが、この1ページ目の赤い部分より桜は外なので、それがちょっと残念なのです。

問題は、先ほど澤委員も指摘したように、研究施設の棟を郷土資料館にということで、使い勝手とか、そこら辺はいかがですか。いろいろ検討した結果、研究棟として使われているけれども、郷土資料館としても大丈夫ということでよろしいのですか。

○図書・文化財課長 今、お話がございましたとおり、現状が小部屋に分かれているものでございまして、そういったところで果たして資料館としての展示スペースの確保ができるのかというところはございます。今、この建物の活用全体を所管していますのは用地活用担当の部署でございますけれども、そちらが委託してございます建築のコンサルがおりまして、一応そちらの方とやりとりをして、当然、先ほど申し上げましたように、柱の撤去がなかなか難しいとか、いろいろな制約はございますけれども、活用の仕方としては活用できるのではないかとということで、こういった案を示させていただいております。

○小島委員 何しろ歴史的な建造物というか、非常に由緒ある建物なので、郷土資料館としては非常にいいのではと思うのですが。

もう1点。築72年でしたか。耐震の関係ではどのような見解なのでしょう。耐震的には特にやらなくてもいいのか。それとも、何か補強をするとか、そういう問題はあるのでしょうか。

○図書・文化財課長 耐震につきましては、かなり古い建物ではございますけれども、逆に、古いということで、かなり頑丈につくってあるということは一方ではございます。耐震の基準そのものにつきましては、部分部分では現行の耐震基準からしまして一部手を入れる必要がある部分はあると聞いてございます。ですから、その辺を踏まえて、今後耐震基準を建物として満たしていけるような補強が必要です。ただ、一方では、外観等につきましては現行の外観を生かす、残すという制

約の中で一定の補強をしていくということになろうかと思います。

○小島委員 いずれにしても、この建物自体はすばらしい建物なので、由緒正しい郷土資料館になるということで期待しております。

○澤委員 ただ、相当大きな費用がかかるかもしれません。

○半田委員長職務代理者 すごくすてきな建物で、これが実現したらすばらしいなと思いましたが、1点ちょっと気になったのが、もともと使っていた施設が保健医療科学院ということで、病院であったり、医学的な実験をしていた跡地ということで、薬の残留とか、いろいろな心配をちょっと思ったり。あと、地下2階から地上3階までということで、日本のこういう建物は地下とか湿度が大変ありますので、そういう重要なものを貯蔵するのに適しているのかなということとか。私、素人でよくわからないのですが、例えば大英博物館とかオルセー美術館はヨーロッパで空気が乾燥しているからいいのですが、そういったことは具体的に、業者さんとか専門家の方たちはどうお考えになっているのかというのがちょっと気になります。

○図書・文化財課長 今のお話、確かに建物自体は公衆衛生の研究施設ということでございますので、そういったご心配はあろうかと思います。当然、建物の活用に関してはそういった検査をしていかなければいけないということになろうかと思います。建物内部もちろんそうですし。あと、建物の周りの土壌につきましても、東京都の環境確保条例がございまして、既に実際に調査を実施してございます。そうしたところ、水銀ですとか鉛ですとかフッ素、そういったものにつきましても基準値を超過しているということも現実に分かってございます。当然ですけれども、そういった状況ですので、土壌の改修工事等もあわせて行うということで考えてございます。

あと、資料の保存等の関係でございしますが、そこが私どもの一番気になるところでございます。そういった資料の展示・保管に適切な環境を整えなければ、この話そのものが根本から崩れてしまう話でございしますので、湿度ですとか、日光の遮断ですとか、温度ですとか、そういった管理をきちっとやらなければいけないということで、実際にはイメージとしては建物の中にもう一つ入れ子をつくってしまって、その中で保存・展示をするというような考え方になろうかと思います。そういった意味でも、相当の経費はかかると思います。

○半田委員長職務代理者 ほかにございますでしょうか。

では、この案件はよろしいでしょうか。

「閉 会」

○半田委員長職務代理者 庶務課長、そのほか何かございますでしょうか。

○庶務課長 特にございません。

○半田委員長職務代理者 それでは、これをもって閉会といたします。

次回は2月1日火曜日、午前10時からの予定です。よろしくお願いいたします。皆様お疲れさまでした。

(午前11時59分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長職務代理者 半 田 吉 恵

港区教育委員会委員 澤 孝 一 郎